

新薬の薬価算定における有用性系加算の適用状況

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	計
画期性加算	1	0	0	1(1.6%)
有用性加算(Ⅰ)	0	1	0	1(1.6%)
有用性加算(Ⅱ)	4	8	8	20(32.8%)
対象成分数	21	20	20	61(100%)

新薬の薬価算定における加算率の適用状況

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	計
画期性加算	30.0%	—	—	30.0%
有用性加算(Ⅰ)	—	16.2%	—	16.2%
有用性加算(Ⅱ)	3.6%	5.4%	3.3%	4.2%

※平成14年6月～平成17年4月の新規収載品を対象

外国平均価格調整の意義

意義: わが国の新薬の薬価を**主要先進国と大きな乖離を生じさせないこと**

引下げ調整の必要性

わが国の新薬の算定価格が主要先進国に比し極端に高い場合は、当該企業に過剰な利潤(国民には損失)をもたらす可能性があるため、引下げ調整は必要

引上げ調整の必要性

わが国の新薬の算定価格が主要先進国に比し極端に低い場合は、当該企業が採算が立たないとの理由により日本には供給されないといった事態が生じる可能性があるため、引上げ調整は必要

引上げ調整により外国平均価格に近づいた主な品目

薬効分類名	外国価格	調整前		調整後	薬効分類名	外国価格	調整前		調整後
抗がん剤	26,967 円	8,957 円	⇒	17,962 円	抗リウマチ剤	600.2 円	179.6 円	⇒	337.1 円
抗うつ剤	148.4 円	65.9 円	⇒	107.2 円	抗ウイルス剤	2,253.9 円	667.0 円	⇒	1,334.0 円
抗がん剤	43,835 円	18,316 円	⇒	31,076 円	気管支拡張剤	350.5 円	134.8 円	⇒	220.2 円
統合失調症用剤	666.5 円	313.9 円	⇒	553.0 円	抗がん剤	120,142 円	42,047 円	⇒	74,087 円

※算定根拠公表以降の品目を対象(収載順)